

#### A-2-5-4 臨床研修医に対する人工呼吸器教育の現状の課題について

亀田総合病院 リハビリテーション室<sup>1)</sup> 呼吸器内科<sup>2)</sup> 救命救急科<sup>3)</sup>  
鵜澤吉宏<sup>1)</sup> 金子教宏<sup>2)</sup> 不動寺純明<sup>3)</sup>

【はじめに】医療過誤の原因の一つに知識と技術不足が挙げられている。人工呼吸器操作は生命に直結する重要な技術の一つであり、人工呼吸器 (Mechanical Ventilator : MV) に対しての知識や技術にばらつきがあると、設定の不具合がみられ事故につながる。MV の指示・操作は医師により行なわれるが、その使用は専門以外の医師や臨床研修医が行なう現状がある。そこで臨床研修医に対し MV の使用経験と使用時の困惑感、教育の必要性に関するアンケート調査を行ない、MV に対する臨床研修医教育の問題点について検討した。

【対象】当院の臨床研修医 30 名を対象とし経験年数と MV 使用経験、MV を使用した時（初回使用時と現在）の困惑感の有無とその程度を 10cm の Visual Analog Scale (VAS) にて評価した。また、卒前教育の有無とその内容、卒後教育の必要性を調査した。

【結果】アンケート回収 23 名、回収率 77%。経験年数は 1 年目 10 名、2 年目 12 名、3 年目 1 名であり、1 名（1 年目）を除く 22 名が MV 使用経験ありと答え、その全員に使用時の困惑感がみられた。その困惑感の程度は初回使用時では VAS で  $86.0 \pm 15.5$  mm であり、その内容は設定項目の意味や MV 操作、アラーム対応などであった。アンケート時の困惑感の程度は VAS で  $42.2 \pm 22.3$  mm、困惑内容としては病態の違いによる設定の考慮、MV 離脱の進め方などであった。卒前教育は 10 名受けていたが、その内容はモードの説明に限られ、全員不

十分と答えた。MV 初回使用時の困惑感に関する卒前教育の有無で VAS 値の差を比較すると、両者に有意差はみられなかった。アンケート実施時の MV 使用困惑感を経験年数で比較すると、1 年目研修医より 2 年目研修医の方が優位に VAS が低値であった。卒後教育は 22 名が必要（1 名無回答）と回答、希望時期は 1 年目後期が多く、希望内容は初期設定や設定変更、MV 離脱に関するものが多かった。

【考察】臨床研修医の多くは MV に対し知識と技術が不十分で使用時に困惑感がみられ、特に初回使用時には基本的な内容の困惑感がみられた。MV 使用の困惑感の差は卒前教育の有無より、卒後の経験との関係が示唆された。当院研修医は現状の卒前教育が不十分と考えていること、当院では人工呼吸器に関する卒後の体系的な教育が整備されていないことから、卒後早い時期の指導とその後の段階的な専門教育を行なうことが必要と思われた。